



中華民國 台灣投資通信

発行: 中華民國 經濟部 投資業務処 編集: 野村総合研究所(台湾)

December 2019

vol. 292

■今月のトピックス

台湾中南部地域の航空産業と観光業の発展機会

■日本企業から見た台湾

～能率昂科循環科技 宝誠治執行副總經理インタビュー～
台湾でのITADビジネス拡大を目指す
アンカーネットワークサービス

■台湾進出ガイド

サイエンスパークの情報

■台湾マクロ経済指標

■インフォメーション

【今月のトピックス】



台湾中南部地域の航空産業と観光業の発展機会

台湾を訪れる外国からの旅行客数の成長が鈍化している情勢を受け、交通部は2019年末に「三本の矢」台湾観光政策を提出した。2030年に台湾への旅行客数の2,000万人到達を目標設定しており、観光事業発展を積極的に進めている。桃園空港の容量飽和や地方観光発展の必要を考慮し、民航局は台中と高雄の空港投資を強化し、観光局は中南部地域の航空路線開通やチャーター便による補完策を提供し、北部地域以外への航空路線や観光事業を呼び込むことで、中南部地域の航空や観光産業発展のきっかけとなることを目指している。

訪台観光人数の開拓目標

台湾を訪れる観光客数は2018年で1,100万人規模となったものの、成長スピードは緩やかである。訪台旅行客の人数は中国が最も多いが、中国人観光客数は中国政府に管理されており、台中間の政治情勢から2015年の400万人をピークに、2018年には269万人まで減少した。国・地域別にみると二番目が日本、次いで香港マカオ・韓国の順であるが直近三年での成長は約30万人にとどまる。一方東南アジアからはここ3年で80

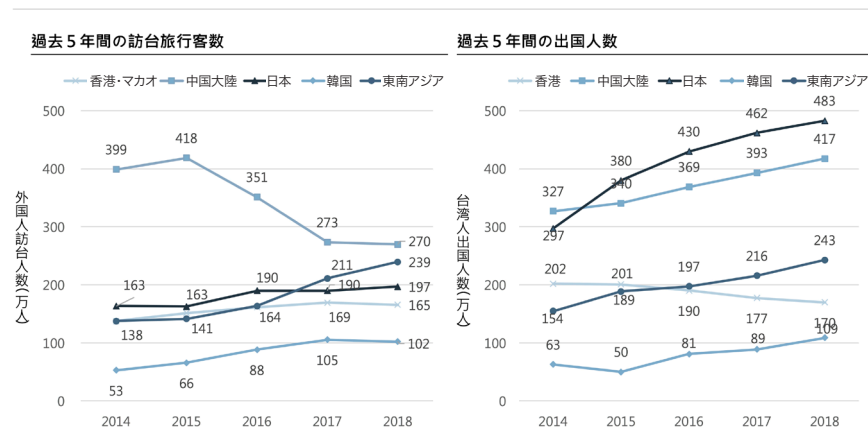
万人増加している。合計で台湾の外国人観光客人数は微増をなんとか維持している状況である。

一方で、台湾からの出国者数は最近5年で500万人増加し、2018年で約1,664万人となった。国民の出国率は2013年の50%から、2018年には70%に達し、将来も引き続き成長していくと予想されている。

台湾は人口減少が間近に迫っており、出国率は増加し続けているものの、総人口の減少が出国者数の成長を抑える可能性がある。台湾の消費市場や経済発展を維持するためにも多くの旅行客が台湾で消費活動をするよう促すことが、台湾の発展に必要な政策の一つとなっている。

交通部の林佳龍部長は10月29日に「観光の三本の矢」を提出した。観光局の観光署への昇格加速・2030年白書制定、および観光業界全国会議の開催と、2030年に訪台国際観光客人数の目標を延べ2,000万人に設定する内容である。旅行客の創造や十分な空港設備提供を如何に実現するかが、将来における台湾の交通および観光事業の重要な発展課題となっている。

図1. 訪台旅行客および出国人数統計



今月のトピックス

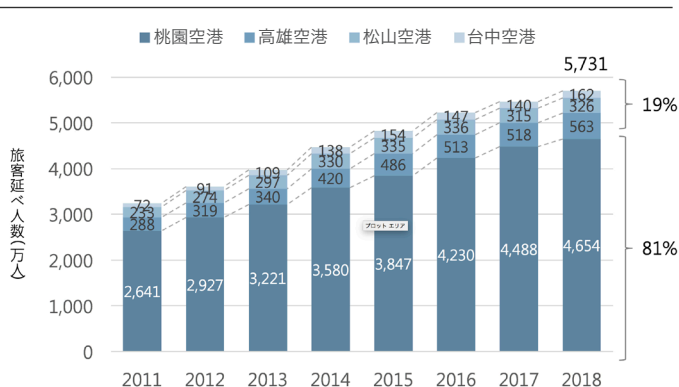
全国の空港容量計画と現状課題

将来の膨大な量の旅客需要に応えるため、台湾各地の国際空港は積極的に建設を進めている。中でも桃園空港は2030年までに第三滑走路・第三旅客ターミナル・サテライトターミナルなど、総旅客人数を延べ3,700万人から8,200万人以上に増やす計画である。また、中南部の空港利用者を増やすため、交通部は2年以内に台中と高雄の空港規模拡大の計画を提出予定である。高雄空港は既存の国際線ターミナル改築を予定しており、旅客人数は延べ600万人から1,100万人に増加する。台中空港は3年以内に既存ターミナルの拡張が完成し、第三ターミナル建設も計画されており、旅客人数は延べ170万人から400万人に増加する。同時に空港用地の範囲拡大を評価中で、新ターミナルと新滑走路の建設可能性がある。開発が完成すれば、空港はのべ600万人以上の利用が可能となる。つまり将来の台湾の国際線旅客数は2040年には延べ1億人以上となる可能性がある。

旅客拡大の計画はあるものの、空港の建設は未完成であるため、向こう10年は台湾の空港は容量不足に直面することになる。桃園空港が最も深刻であり、計画旅客数は年間3,700万人のところ実利用数は既に4,600万人に達しており、空港のサービス品質に影響が出ている。滑走路収容能力と駐機場も飽和しつつあり、短期的に他の時間帯や追加容量確保が難しい状態にある。

近年の国際線の利用は桃園空港に集中して発展してきた。過去5年間で桃園空港利用者は延べ約1,000万人増加したが、その他3箇所の国際空港の増加はわずか約150万人である。主な要因は、桃園空港が台湾最大の国際空港である他、人口が最大かつ訪台旅行者の旅行スポットである大台北地区に近いことがあげられる。台湾への出入国に桃園空港を利用する旅行者は80%に達している。

図2. 国際空港旅客人数



高雄空港と台中空港については、ピーク時に一部のターミナルで飽和問題はあるものの、ほとんどの時間帯でまだサービス提供が可能である。短期的には桃園空港の大量旅客サービス提供が困難なため、交通部は、旅行者の拡大は中南部の空港の活用が重要であり桃園空港の負担緩和にもなると考えている。

地方空港への投資と発展機会

北部以外の空港利用強化のため、交通部は桃園・松山行き以外の空港利用料無料化の優遇・日本韓国の地方都市旅客チャーター便の台湾就航の奨励金などの優遇策を多数うちだした。台湾の北部以外の総人口は全体の約55%であり、中南部の便が増えることで、中南部の空港を利用する可能性が高まり、桃園空港の緩和にもつながる。

外国人観光客の観点でも、これまで台北を旅行先として選択することが多かったが、旅行スタイルの多様化やリピーターが増えていることから、直接中南部や東部への観光を希望する旅行者も増えている。

空港設備と時間帯の観点でみると、混雑時間帯の桃園空港は既に飽和状態で残りは深夜か早朝の時間帯のみとなっており、旅行業の発展には不利である。他の空港は昼間の時間帯の離発着がまだ可能であり、旅行自体を比較的良好にすることができ、かえって多くの旅行者を獲得することできる可能性がある。地方観光の開拓発展のため、中南部の地方政府は現在積極的にプロモーションや環境整備に取り組んでいる。台湾観光を開拓する旅行者にとっては最良のサポートといえる。

以上の発展条件をまとめると、交通部が中南部空港活用を目指す発展ビジョンのもと、将来中南部地域では多くの建設案件やリソース投入が期待されている。航空業者・旅行業・旅館業等関連業者にとっては、今後台湾への投資機会となり得る。

図3. 中南部空港活用



(林宛萱, w3-lin@nri.co.jp)

台湾でのITADビジネス拡大を目指す アンカーネットワークサービス

アンカーネットワークサービスは、19年8月に台湾の佳能国際との合併会社である能率昂科循環科技を設立。日本で30年近く事業を進めてきたIT機器の買取り、データ消去、リファービッシュ(ITADビジネス)を台湾でも行う。今回は能率昂科循環科技の事業内容や今後の展望について、宝誠治執行副總經理を訪ねお話を伺った。



能率昂科循環科技の
宝誠治執行副總經理(左)と總經理張耀仁(右)

ーアンカーネットワークサービスについて

1993年の設立以来、循環型社会の形成を目指して事業を進めています。当社は、創業以来「万人万物共存共生」を理念に掲げ、社会循環品である物の命を、その与えられた役割を最後まで全うできるよう永らえさせることを目指してきました。一つのステージで役目を終えた物を、必要としている別のお客様のもとへ。次のステージでも物が役立ち、輝くように。このチャンスメイクとマッチングが私達の使命であると考えています。

アンカーネットワークサービスの日本での事業としては、機器の買取り、データ消去、運搬、廃棄、販売などのサービスを通じた的確な物件処理となります。買取りサービスでは、パソコン、サーバー、ラック、ルーター、コピー機、オフィスデスクなどを取り扱っており、少量から多種多量まで対応しています。データ消去サービスでは世界で唯一、5カ国(イギリス、フランス、オランダ、ノルウェー、ポーランド)及びNATOの認証を受けたBlanco社のデータ消去用ソフトウェアを採用し、世界基準I4規格の消去方式に対応しています。依頼いただいたパソコンやサーバーの消去結果記録は、消去ログとして保存され、信頼性の高い消去レポート(「データ消去作業証明書」)を作成しています。データ消去の方法としては、他にも磁気や物理破壊による消去も行っています。機器の情報管理を徹底するため、検査・データ消去は、

カメラや機械警備による24時間監視下にある専用作業場内で行っています。また、ICカードによる入退室管理システムや、バーコードによる工程追跡管理システムも導入しています。機器のリユース・リサイクルはもとより、産業廃棄物処理業(収集運搬・中間処理)の許可取得により、廃棄物処理も適正に行うことができるため、安心できるワンストップソリューションを提供しています。OA機器のリサイクル率向上のためには、機器を解体し、素材ごとに分別をすることが有効です。解体方法としては、細かい作業が必要なことから、人の手で行うことがもっとも望ましく、当社では、各地の障がい者支援団体と協業し、作業を委託することにより、障がい者の就労支援事業への協力と、OA機器のリサイクル率の向上を実現しています。一方、当社からパソコンをお買い上げいただくお客様には、マイクロソフト社のMARプログラムによる再生パソコン用正規WindowsOSのインストールを始め、サポートサービス、コンシェルジュサービスをご提供し、安心して商品を使える環境を整えています。

ー台湾での事業内容について

そもそもは情報セキュリティへの意識の高まりや、IT資産買い取り・適正処理を意味するITAD(IT Asset Disposition)サービスの需要が高まってきたことから海外サービスの検討を行って

日本企業から見た台湾

いた中で、今回合併会社と一緒に設立した佳能国際には、当社の「万人万物共存共生」という理念や循環型社会実現という考え方に賛同いただいたことで合併に向けた話が進みました。佳能国際は、事務機器及びオフィス家具の売買、レンタル、メンテナンスを行っている会社で、省エネや環境保護などへの関心が高く、ITADサービスについても台湾での需要の高まりを感じていました。日本での障がい者支援団体との協業についても共感を得られ、日本での取り組みと同じことを台湾でも行えないかということから、ITAD事業を合併で行うことで合意に至りました。台湾では使用済みのIT機器の買取り、データ消去、リファーマッシュ、部品取りを行います。リファーマッシュというのは買い取ったIT機器を新品に準じる状態に再度戻す作業で、部品取りは、まだ利用可能なCPUやメモリを部品としてリユースするために取り出すものです。再利用ができない物は精錬を行うことで金などの希少金属を取り出します。ちなみに日本では2020年のオリンピックに向けて携帯電話などの機器から取り出した金などをリサイクルしてメダルを作るということが行われています。リユースできるものはできるだけリユースを行い、難しいものは解体してマテリアルにするということを台湾でも取り組んでいきたいと考えています。

まだ台湾で営業を始めて間もないですが、台湾では使ったPCは廃棄されてしまうことが多く、そもそもデータを消去してリサイクルを行うという認識がまだ醸成されていないように感じています。データ消去面で安心して廃棄PCを渡せる業者も少ないため、実績を作って信頼を勝ち取っていくことが重要だと感じています。

—今後の取り組み

台湾では営業活動を進めるとともに、認証資格の取得を進めていきたいと考えています。ISOやR2の取得を行うべく活動を進めております。R2は責任あるリサイクル(Responsible Recycling)という規格で、電気・電子機器のリサイクルに関連する環境、労働安全衛生、および情報セキュリティに関するマネジメントシステムへの対処、使用済み電気・電子機器や素材に関する、国

内外の取引企業の管理や取扱いへの対処を求めた規格で、運営・管理は米国の非営利団体SERIが行っています。日本ではすでに取得済みであるのですが、海外進出時にR2は必須であると認識しており、台湾でも取得したいと思っています。

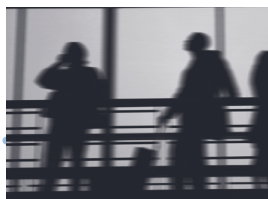
台湾での事業推進の次のステップとしては、中国マーケットを狙って拡大していきたいと考えています。商圈規模が大きく産業廃棄に関するマーケットも大きいのではないかと感じており、台湾はそのファーストステップの位置づけです。

—ありがとうございました

能率昂科循環科技の基本データ

会社名	能率昂科循環科技
代表	張 耀仁(董事長 総経理)
設立	2019年
事業内容	中古IT機器の買取、データ消去サービス、販売等のITAD事

注)2019年10月の情報による
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理



サイエンスパークの情報

本号では、台湾のサイエンスパークの基本情報（敷地面積、賃料、入居状況）について紹介する。

<サイエンスパーク>

2019年10月現在			新竹サイエンスパーク		中部サイエンスパーク	南部サイエンスパーク
			新竹サイエンスパーク	その他のサイエンスパーク		
面 積	開発総面積(ha)		653	竹南園區:123.00 銅鑼園區:350.50 龍潭園區:106.94 生醫園區:38.10 宜蘭園區:70.80	台中園區:465.94 虎尾園區:96.11 后里園區:255.67 中興園區:36.58 二林園區:631.04 (うち192.92が開発完成済み)	台南園區:1043.15 高雄園區:566.98
	入居可能 面積(ha)	土地(ha)	—	竹南園區:0 銅鑼園區:23.86 龍潭園區:1.71 生醫園區:1.89 宜蘭園區:26.76	台中園區:0 虎尾園區:6.79 后里園區:14.28 中興園區:8.98 二林園區:59.90	台南園區:31.79 高雄園區:16.44
		標準工場	—	竹南園區:2単位 宜蘭園區:2単位	台中園區:1単位	台南園區:28単位 高雄園區:1単位(7単位の一部)
入居企業数			392		326	236
費 用	賃料	土地賃料 (元/m ² /月)	59.30	竹南園區:26.67 銅鑼園區:21.81 龍潭園區:20.80 生醫園區:78.77 宜蘭園區:23.46	台中園區:素地賃料7.22 虎尾園區:素地賃料4.94 后里園區:素地賃料2.64 中興園區:素地賃料8.6 二林園區:素地賃料0.94	台南園區:素地賃料6.13 高雄園區:素地賃料3.40
		公共施設 建設費 (元/m ² /月)	賃料に加算済み			台中園區:15.25~26.49 虎尾園區:15.61 后里園區:24.22 中興園區:2.39 二林園區:7.25
	標準工場賃料 (元/m ² /月)		101~129	生醫園區:109 竹南園區:125 宜蘭園區:129	台中園區:90	台南園區:94~135 高雄園區:91
	管理費		年営業率の0.19%			
連絡先			新竹科學園區管理局 03-577-3311 インフォメーション・サービス 内線番号1680 Email:service@sipa.gov.tw		中科管理局 04-2565-8588 投資組 陳科長 #7311 建管組 鄭小姐 #7729 Email:service_ctsp@ctsp.gov.tw	南部科學園區管理局 06-505-1001 インフォメーション・サービス 内線番号5566 Email:IT_UHD@stsp.gov.tw

出典)各サイエンスパークの資料をもとにNRI作成

台湾マクロ経済指標

年 月 別		国内総生産額		製造業 生産年増率 (%)	外国人投資 (千米ドル)		貿易動向 (億米ドル)						物価年増率(%)		為替レート	
		実質GDP (100万元)	経済 成長率(%)		総金額	日本	輸出	年増率(%)	輸入	年増率(%)	貿易収支	年増率(%)	卸売物価	消費者 物価	NTD/USD	JPY/USD
2014年		15,529,606	4.72	6.83	5,751,213	548,763	3,200.9	2.8	2,818.5	1.4	382.4	14.4	-0.57	1.20	30.37	105.94
2015年		15,654,835	1.47	-1.16	4,782,003	453,397	2,853.4	-10.9	2,372.2	-15.8	481.2	25.8	-8.85	-0.31	31.90	121.04
2016年		15,891,514	2.17	1.91	11,026,234	346,875	2,803.2	-1.8	2,305.7	-2.8	497.5	3.4	-2.98	1.39	32.32	108.79
2017年		16,380,812	3.31	5.27	7,503,791	640,642	3,172.5	13.2	2,592.7	12.4	579.8	16.5	0.90	0.62	30.44	112.17
2018年	10月			9.81	796,920	54,995	294.2	7.4	261.0	18.2	33.3	- 37.4	5.69	1.16	30.90	112.78
	11月			2.74	507,718	150,670	276.8	-3.2	229.8	1.4	47.0	- 20.7	2.96	0.30	30.86	113.38
	12月	4,694,273	1.97	-1.22	2,930,200	204,294	283.7	-3.4	237.0	2.0	46.7	- 24.1	0.78	-0.06	30.83	112.57
2019年	1月			-1.08	340,429	36,572	271.2	-0.5	262.5	6.9	8.8	- 67.6	0.26	0.18	30.83	108.92
	2月			-1.86	217,326	27,852	203.2	-8.3	152.8	-20.3	50.4	68.7	0.63	0.22	30.82	110.35
	3月	4,720,155	1.84	-10.01	466,174	44,796	284.8	-4.4	254.4	6.7	30.4	- 48.8	1.19	0.56	30.86	111.21
	4月			1.32	955,742	722,024	255.7	-3.7	229.1	2.1	26.6	- 35.4	0.68	0.66	30.86	111.66
	5月			-2.49	1,040,760	33,292	275.6	-4.8	230.9	-5.8	44.7	0.6	-0.39	0.93	31.25	109.85
	6月	4,761,253	2.60	-0.75	457,358	56,541	282.2	0.4	243.4	6.4	38.8	- 25.9	-2.01	0.85	31.34	108.06
	7月			3.82	468,534	22,025	281.2	-0.3	244.6	-5.7	36.6	60.6	-3.57	0.38	31.09	108.24
	8月			2.24	2,535,283	55,558	287.9	2.7	227.9	-3.2	60.0	34.3	-3.63	0.43	31.41	106.27
	9月	4,789,789	2.99	-0.52	1,362,150	153,322	281.0	-4.6	249.6	-0.6	31.5	- 27.7	-4.70	0.43	31.14	107.48

出所：中華民国經濟部統計処

インフォメーション・コーナー

2020年 台北国際ギフト・文具見本市 (Taipei International Gift, Stationery & Culture Creative Show)

概要
台北国際ギフト・文具見本市は、台湾で唯一のギフト及び文具関連のプラットフォームである。毎回、国内外より数多くのバイヤーが駆けつける。昨年は357社が、493ブースを出展し、日本から訪れたバイヤーは中国に次いで2番目に多かった。詳細は下記サイトまで：
https://www.giftionery.net/zh_TW/index.html

日時
■2020年4月23日(木)～4月26日(日)

出品物及び展示テーマ
■ギフト用品 ■販促用品 ■文具 ■画材 ■学用品 ■オフィス用品 ■装飾品 ■手工芸品
■家庭用品 ■生活用品 ■ガーデニング用品 ■アロマ美容化粧品 等

展示会場
■台北世界貿易中心展覧1館(台北市信義区信義路五段5号)

主催
■中華民国對外貿易發展協會(TAITRA)

お問合せ及び資料請求
■台湾貿易センター(TAITRA) 東京事務所
TEL: 03-3514-4700 FAX: 03-3514-4707 E-mail: tokyo@taitra.gr.jp
■中華民国對外貿易發展協會(TAITRA)
TEL: 886-2-2725-5200 (樊祥琳 小姐 内線2678) E-mail: giftionery@taitra.org.tw

■ジャパンデスク連絡窓口 (日本語どうぞ)

ジャパンデスクは、日本企業の台湾進出を支援するため、台湾政府が設置しています。野村総合研究所が無料でご相談にのります。お気軽にご連絡ください。

經濟部 投資業務処

台北市館前路71号8F

TEL: 886-2-2389-2111 / FAX: 886-2-2382-0497
担当: 劉庭嘉 ext.213

野村総合研究所(台湾)

台北市敦化北路168号10F-F室

TEL: 886-2-2718-7620 / FAX: 886-2-2718-7621
担当: 伊豆陸 ext.132 / 莊雅喬 ext.150 / 諸橋洋子 ext.123 / 田中俊一 ext.135

野村総合研究所 コーポレート イノベーションコンサルティング部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ

TEL: 080-5689-5783 (直通)
担当: 杉本洋

● ジャパンデスク専用 E-mail: japandesk@nri.co.jp ● ホームページ <http://www.japandesk.com.tw>

個別案件のご相談につきましては、上記ジャパンデスク専用Eメール、もしくは野村総合研究所(台湾)宛にお願い致します。